

令和7年度第2回食品ロス削減推進計画部会

日時：令和7年10月20日（月）
13時00分～14時15分
場所：大阪府咲洲庁舎23階
中会議室（オンライン開催）

○事務局（荒木総括課長補佐） 皆さまおそろいになりましたので、ただいまより第2回大阪府食品ロス削減推進計画部会を開催いたします。委員の皆さま方におかれましては、お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日、進行と説明を務めさせていただきます、流通対策室ブランド戦略推進課の荒木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席状況についてですが、花田部会長をはじめ、石川部会長代理、迫田委員、吉田委員がご出席いただいております。なお、近藤委員におかれましては、所用によりご欠席と伺っております。本部会の委員につきましては5名で、本日4名の方にご出席いただいておりますので、部会の運営要領に基づきまして、2分の1以上の皆さまのご出席をいただいているということで、本会議は有効に成立していることをここにご報告いたします。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。次第に基づきまして、資料を確認させていただきます。

資料につきましては、資料の1から5ということで、それぞれ配布をさせていただいております。説明のときに、また画面で投影をさせていただきますので、順次ご説明を申し上げますが、お手元にメールで届いていない方とかはおられませんでしょうか。もし何かありましたら、またご連絡をいただければと思います。よろしくお願いいたします。また、委員の皆さま方におかれましては、基本的には音声はミュートに設定いただきまして、ご発言の際は、挙手ボタン等でお知らせいただきまして、音声のミュートを解除した上でご発言いただきますように、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより議事に移りたいと思いますので、花田部会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

【資料1 第1回食品ロス削減推進計画部会の意見及び対応について】

○花田部会長 はい、皆さまあらためましてこんにちは。音声は届いておりますでしょうか。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、届いております。

○花田部会長 はい、ありがとうございます。それでは早速ですが、お手元の議事次第をご覧くださいませ。議事次第に沿って進めてまいりたいと思います。まず資料の1、第1回食品ロス削減推進計画部会の意見及び対応部会の運営について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、ありがとうございます。事務局の荒木でございます。それでは、資料1につきまして説明をさせていただきます。皆さま、画面は見えていますでしょうか。それでは、資料1に基づきまして、説明させていただきます。

まず、第1回の計画部会における意見とその後の事務局の対応というところで整理をさせていただきます。まず初めに、将来目標につきましては、現行の計画の2点ということで、食品ロス量の削減目標を事業系を60%減、家庭系は50%減のままと。

2点目につきましては、食品ロス削減に取り組む府民の割合を90%維持するということ

ころでご提示をさせていただきまして、これにつきましては原案のとおりご了承いただいたというところで確認をしております。

続きまして、削減状況を踏まえた施策の方向性につきましてということで、事務局の方から提示させていただきました内容は、計画の基本的構成は維持しつつも、取組を加速させていくというところで、具体的な内容を計画に盛り込んでいくと。その盛り込んでいくに当たって、施策の柱を立てていくということで、事業系、家庭系双方にアプローチをしていくということで、売れ残り、食べ残り等の発生抑制と、未利用食品の有効活用というところを掲げたというものを提示いたしました。

第1回の部会で、委員の皆さまからご意見をいただいた主な内容になりますけれども、大きく3点でございまして、取組を加速させていくための具体的な内容というところで、行動変容を強く打ち出していくという点と、2点目は施策を体系化していくこと。これについては、おおむねご理解をいただいたと考えていること。三つ目につきましては、やはり行動変容を進めるに当たって、大阪府民に楽しくかつ刺さるような言葉、メッセージがあればよいかというご意見を賜ったかと存じます。

この点につきまして、事務局の方でも整理をいたしまして、まず1点目の施策体系については、これまで発生抑制というところの観点で整理をしてきたんですけれども、この点につきましてはどのような行動変容を促進していくのかという観点も盛り込みながら再整理をさせていただいたということで、後ほど資料の2の方でご説明申し上げます。

2点目、現在のスローガン「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」につきましても、先ほどのご意見を踏まえまして、大阪らしい言葉やスタイルで、行動変容を促進させていくという観点からサブタイトルを追加していこうというところで考えてございます。

次のスライドですが、こちら事業系、消費者の取組ということで、委員の皆さまからご意見をいただいた主な点というところであります。1点目は、行動変容を促していくために、何を伝えていくのかと。単に啓発というところじゃなくて、具体的な内容が記載できるというよねというところが1点。それから、やっぱり事業者、消費者、さまざまな連携した取組が進んできておりますので、多様な方々と一緒に取組を進めていくという内容を盛り込んでいくと。

三つ目は、アップサイクルの表現について、やはりイメージとか効果の面で計画に乗せるほどのレベルではないのではないかということで、項目は出していたんですが、この点についてはなかなか難しいのかなというふうにご意見をいただいております。

四つ目、フードドライブについても、まだ認知度自体が非常に低いというところで、取組の前提として、その意義というところも府民に広く知っていただく必要があろうというご意見を賜りました。

これらについて、事務局で整理をいたしまして、1点目の取組、特に消費者啓発というところで行動変容を促進するために具体的な内容を盛り込んでいくということ。2点目は、各

主体が連携して行動変容に取り組むというところで、現行の計画では消費者の取組、事業者の取組と主体別の取組を掲げていたんですけれども、今回この施策の体系に沿って取り組んでいく内容というものを整理しながら記載していくという形にさせていただきたいと思います。

三つ目のアップサイクルの記述ということで、項目自体は、やっぱりアップサイクルのところに落としていくということになるんですけれども、やはりいろんな食品の分野でもそういった加工とかというところで食品リサイクルの分野になるかもしれませんが、そういったところで取組があるというところで、少しここはこれからご相談にはなりますが、本文ぐらいで少し記載ができないかなというところで考えてございます。

最後四つ目ですね、フードドライブの取組の周知の際に、この意義というところもしっかりお示しをしていくという形で考えてございます。資料1につきましては、説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

《意見交換》

○花田部会長 はい、ご説明ありがとうございました。まず、大きいところで言いますと、事業系の削減目標を60%減にするというところと、アップサイクルの使い方について少し考えていただいたというようなところ、そして、行動変容に重きを置いて、表記していくというようなことを考えていただいたというご報告だったと思います。

前回部会で委員の皆さまからいろいろご意見を承りまして、それを踏まえた構成や取組などの修正案についてということで、ご説明をいただきました。この説明内容について、何かご意見ご質問がございましたらと思いますが、いかがでございましょうか。もし、私が見落としていたらいけないので、事務局の方で委員の皆さまの挙手があれば・・・。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、承知しました。

○花田部会長 ご反応を教えていただけたらと思います。いかがでしょうか。一つお伺いしてよろしいでしょうか。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい。

○花田部会長 2枚目のスライドで、食品ロスの削減に取り組む府民の割合についてということで、90%という目標を継続ということですが、現状は何%ぐらいだったか。これ、教えていただいたかもしれませんが、もう1回教えていただけますか。

○事務局（竹内総括主査） 86点幾つだったと思います。

○花田部会長 86ぐらい。分かりました。いえ、だいたい結構なんですけど、90%というのが適当なところかなというのを少し考えていただくために、それが分かったらと思ったので、すみません。ありがとうございます。現状86%ぐらいだということですので、90%はとても適当なところかなというふうには思っております。が、委員の皆さまいかがでしょうか。これについてはよろしゅうございましょうか。

前回のご意見をいただいたことについて、このように対応していただいたというご説明

でした。よろしゅうございますか。分かりました。ありがとうございます。私見落としていませんよね。

○事務局（竹内総括主査） はい、挙手は挙がっておりません。

○花田部会長 はい、ありがとうございました。

【資料2 委員意見を踏まえた施策体系の再整理について】

○花田部会長 では、続きまして次の資料に移りたいと思います。資料の2、委員意見を踏まえた施策体系の再整理についてということで、これもご説明をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、ありがとうございます。引き続き事務局の荒木でございます。よろしくお願いいたします。

資料2ですね、委員意見を踏まえました施策体系の再整理ということで、まず目次のところで書いてありますが、大きな変更点を赤字のところの矢印で記載をしております。

まず、もともと一つ目ということで、発生要因と主な対応策ということで、いろいろ分析をしておりましたが、この中で行動変容のところに着目をしていくということで、行動変容の促進ということで、家庭における食品の使いきりの推進というものを施策の柱として一つ追加したいと考えております。

二つ目ですね、この施策体系の再整理、取組の方向性ということで、今申し上げた家庭における食品の使いきりの推進というものを1本加えさせていただきまして、施策の柱を三つに再整理させていただくということでございます。

三つ目、計画に盛り込む基本的施策の取組内容というところですが、これにつきましても先ほど申し上げました事業者の取組、消費者の取組という現行の計画から、この三つの施策の柱に沿って取組内容を再整理していくと。このような整理をさせていただいたというところでございます。順次説明をまいります。

まず1点目の発生要因と主な対応策の整理であります。まず1点目は事業系食品ロスですね。この点につきましても、大きな変更はないんですが、これまで食品ロスの発生要因に着目をして、そのボリュームゾーンにアプローチをしていくということで、売りきり、食べきりということで分析をしていたんですけども、今回ご意見をいただきました。行動変容に着目をしていくということで、赤字で塗らせていただいていますこの対策のところにあらためて着目をいたしまして、整理をしているというところでもあります。

基本的には売りきり、食べきりの、それから未利用食品の有効活用というところのアプローチは変わっていないのですが、こういうところを事業系については整理をしているものでございます。

続きまして、家庭系の食品ロスですね。ここが少し変更が入っているということで、第1回の計画部会において、先ほど申し上げましたボリュームゾーンということで、直接廃棄と食べ残しというところを中心にアプローチをしていくという整理をしていたんですが、

この点について、先ほど申し上げましたように、行動変容をどのように着目していくかというところで整理をいたしましたところ、この赤字で書いています対策（行動変容）というところですね。食べきりと未利用食品の有効活用については、前回入れておりまして、今回使いきりというところ、ここを行動変容、対策ということで加えていこうという整理をしています。

これによりまして、事業系と家庭系、両方共通する食べきりと未利用食品の有効活用、それから、新たにこの家庭系というところで使いきを推進する対策行動変容。これを加えながらさらなる食品ロスの削減に取り組んでいくと。このような整理をさせていただきました。

これに基づいて、2番のところで3本の柱にしていくというところでございますが、前回説明させていただいたところは割愛させていただきますが、今申し上げました施策の柱として、新たに家庭系の削減というところで、家庭における食品の使いきの推進、これを加えていくことによって3本柱で整理をしています。

整理した結果と基本的施策と、施策で進める内容の変わっている点を黄色マーカーしているんですけども、もちろん今回使いきの話が入ってきましたので、使いきりに関する施策の内容を黄色マーカーで更新させていただいているというところと、あと行動変容を促していくというところでメッセージを出していくということで、これまで例えばですが、10月の食品ロス削減月間において、ここを啓発としていたんですけども、やはりこういった行動をしていくのかというアクションの部分を打ち出していくというところで、広域的な情報提供であったり、行動変容を呼び掛けていくと。具体的な行動を呼び掛けていくという打ち出し方に修正をしています。

この内容に沿って三つ目というところで、基本的施策と取組の内容について、この3本柱に沿って再構成をいたしました。

まず、施策体系の一つ目ということで、家庭における食品の使いきの推進ですね。少し先ほどの説明と重複いたしますけれども、食品を使いきるための在庫管理といった手法を消費者に情報提供しながら、家庭における食品の使い忘れ等、こういったものを削減していこうというところで、更新しているところが黄色マーカーとなっております。ここにつきましては、それぞれの施策の取組自体は第1回の部会のときからそんなに変わっておりませんし、また表現とかにつきましても、ブラッシュアップしたというところでございます。

続きまして、施策体系の2ということで、食品の売りきり、食べきの推進というところですが、ここの体系につきましては、取組内容が非常にボリュームがありますので、こちらの施策体系2の中でも取組の軸を二つの柱に整理させていただいております。

一つは、消費者の行動変容に向けた取組というところで、もちろん事業者と消費者、連携した取組というところの軸はあるんですが、その連携した取組によって消費者行動による売れ残り、食べ残しを減らしていくというところなんです。

1点目、10月の食品ロス削減月間における広域的な広域への呼び掛けというところで、

具体的な内容というところで、例えば手前取り等の売りきりにつながる消費行動というところで事業者と連携しながら広域的に消費者へ呼び掛けているといったところを更新しております。

消費者行動の取組の続きであります、こちらについても内容を更新しているところでありまして、大きく変わっているわけではありませんが、売りきり、食べきりといった意義であったり、その手法をそれぞれの取組の中でお示しをしていくという形に整理をしております。

施策体系2の中のもう一つの取組の軸で、適正量の把握や、消費者啓発の事業者間での共有、あるいは連携に向けた取組というところで事業者による売りきり、食べきりの取組事例の周知であったり、売りきれ、食べきれ適正量を把握していく需要予測、あるいは啓発の戦略の手法というものを取組の中で進めていくということで、取組の内容については従前のパートナーシップ制度の推進であったり、取組事例の共有・周知というところで、変わっておりません。

最後、施策体系の3の、未利用食品の有効活用ですね。こちらについては、第1回のときから特に大きくは変わっていないんですが、この黄色のところ、リード文のところだけ少し整理をさせていただきまして、家庭における未利用食品を地域で活用していくというフードドライブの取組の拡大を図るという点と、食品寄付があったり、あと表現についてはご相談なんですが、加工等に未利用食品を提供する事業者の参入を促進するというところで、少しアップサイクルの表現に代わるところを取組として少し残しておこうという意図があって、文言として入れております。

すみません、ちょっと駆け足の説明だったんですが、一応このご意見、いただいた内容を踏まえて事務局としてこの施策の体系であったり、取組の内容というものを第1回のときからブラッシュアップさせていただいたというものでございます。説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

《意見交換》

○花田部会長 はい、ご説明ありがとうございました。ただいま、事務局から使いきりの追加、それから施策体系を三つの柱として再整理されたということが大きな変更かなというふうに思います。今のご説明内容につきまして、何かご意見ご質問がございましたらと思いますが、いかがでしょうか。どの方向からでも構いませんので。

今のスライドの中で、白抜き菱形が消費者で、黒い菱形が事業者というような使い分けをされているのかなと思いますが、そうですね。

○事務局（竹内総括主査） 今回は、全部同じ白い菱形にさせていただいてまして。

○花田部会長 そうなんですか。計画では、使い分けはしないんですね。

○事務局（竹内総括主査） はい。

○花田部会長 以前、なんかそういう使い分けをされていたように記憶するんですが。

○事務局（竹内総括主査） はい、事前説明の際にお示したときに、この黒四角、白四角というのをお示していたんですが、非常に分かりにくいというところもありましたので。

○花田部会長 そうですね。

○事務局（竹内総括主査） 文言として今表示しているところの中で言えば、言葉で書かせていただいたというところで、10月食品ロス削減月間における消費者へのというところで、取組をしているのは事業者だったりするんですが、呼び掛ける対象は消費者ですというところで、ちょっと文字数は増えているんですが、文章で書かせていただくことにいたしました。

○花田部会長 はい、分かりました。事前説明のときにちょっとそれが分かりにくいんじゃないかなと思ったので、今お尋ねしようかなと思ったんですが、統一されたということですね。

○事務局（竹内総括主査） はい。

○花田部会長 だから、消費者へのというのと、それから消費者がやることと、そこら辺の分類が難しいなと思っていたので。分かりました。ありがとうございます。

委員の皆さまいかがでしょうか。吉田さまお願いできますでしょうか。

○吉田委員 はい、すみません、お世話になります。エイチ・ツー・オーリテイリングの吉田です。大変さまつな意見で申し訳ありません。最後の未利用食品のリード文のところなんですが、アップサイクルを意識して書いてくださったというのはすごくよく分かるんですが、食品寄付や再販売、加工等に未利用食品を提供する事業者の参入という言い回しが、すみません、私の理解が悪いだけかもしれないんですが、ずっとどういう状況かが入ってきにくい表現だなというのがあって、もうちょっとシンプルでも良いと思うんですが、もうちょっと違う言い回しがあったら、その方がいいかなという感じが印象としてあったという。すみません、1意見でございます。

○花田部会長 ありがとうございます。今のご意見について、事務局いかがでしょうか。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい、ありがとうございます。おっしゃっていただいている趣旨、すみません、われわれもこのあたり、どう表現して良いのかというところで、ちょっと悩みながら書いておりまして、その点につきましては、次回の部会に向けて、われわれの中でも整理をさせていただいた上で、また個別に委員の皆さまにご相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○吉田委員 すみません。はい、ありがとうございます。考えてみます、こちらも。ありがとうございました。

○事務局（荒木総括課長補佐） ありがとうございます。

○花田部会長 ありがとうございます。なかなか食品というところでアップサイクルは難しいというのは前回も出てきたところではあるんですが、それも考えていただくきっかけにしたいことはしたいですね。

○事務局（荒木総括課長補佐） はい。

○花田部会長 ありがとうございます。他にご意見はいかがでしょうか。迫田委員お願いいたします。

○迫田委員 はい。少し前から疑問に思っていたことなんですが、事業系は60%、家庭系は50%食品ロスを削減しますと。これは相当な量になると思うんですが、そうした場合に大阪府のごみの量も当然下がってくると思うんですが、その辺の関連性といいますか。というのはお考えになっていますでしょうか。ちょっと疑問に思ったものですから。ご回答いただけるとありがたいです。

○花田部会長 ありがとうございます。事務局いかがですか。

○事務局（竹内総括主査） 当然ごみの量の中でも、食品廃棄物の量には直結する部分ではありますし、この今回の食品ロスの量を量る中でも、ベースは食品廃棄物の量ということになっておりますので、ごみ全体の量に貢献する部分というのはこれを減らすことで、ごみ全体が。プラスチックとか食べないものを含めてになってくるので、総量ではございませんが、食品廃棄物の量はその分減るということにはなってきます。お答えになっているのか分からないんですが。

○花田部会長 そうですね。すみません。たぶん、食品関係の廃棄物の中でも、食品ロスに相当する割合ってあったと思うんですよ。その割合の、例えば50%を減らす、60%を減らすということが、全体として何%減ることになるのかとか、あるいは重さでどれくらい減ることになるのかという、そういう試算みたいなものはありますでしょうか。

○事務局（竹内総括主査） 目標自身がトンなので、出てまいりますね。

○花田部会長 はい、じゃあトンで。

○事務局（竹内総括主査） ちょっと他の者が用意しているので、共有をさせていただきます。

○事務局（清瀬副主査） 令和4年度のデータになるんですが、こちらは製造業に関するところでざっくり出させてもらっているんですが、だいたい製造業でいいますと23万トン食品廃棄物があるうちの2万トンが食品ロスというので、割合で言うと10%に満たない程度というところですね。

○花田部会長 これは製造ですよ。

○事務局（清瀬副主査） 細かいところを言いますと、それぞれ業種によって割合は違うんですが。

○事務局（竹内総括主査） 割合からいったら、令和4年の例を出すと分かるんですけども。

○事務局（清瀬副主査） 食品廃棄物の合計が56万トンで、食品ロスが13万トンというところで、全体で言うと3分の1程度というところですよ。そのうちの50%削減、60%削減というようなところになってきまして、食品廃棄物で言うと、その3分の1程度というような形にはなります。

○事務局（竹内総括主査） 計画本文の中に、トンが出ていたと思いますので、そちらの方

をご覧ください。

今まで論議の中ではパーセンテージで言わせていただいているんですが、計画の本文の中には数値の目標としても書かせていただいております。

こちらの方で割合を出させていただいているんですが、こちらの方で5割減、6割減になった場合というところで、これが減らす目標値というところになるので、最終的に事業系が13.3万トンにすることなので、これが目標値ですので、基準値内に現状値からすると。現状値からすると、さらに4万トンほど減らすという部分と、家庭系においても4万トンほど減らすということで、8万トンぐらいを減らそうと。

だから、これがごみも8万トンは減るというような目標になっております。だから、総量からすると、桁としてはやっぱり食品廃棄物の中の食べられる部分だけのお話というところもありますので、総量からすると桁はということはあるんですが、8万トンの廃棄物を減らしましょうというような目標になっています。

○花田部会長 ありがとうございます。迫田委員、いかがでしょうか。

○迫田委員 はい、よく分かりました。ありがとうございます。

○石川委員 よろしいですか。

○花田部会長 はい、石川先生お願いします。

○石川委員 先ほど吉田委員がご指摘されていたところの文章を見ていて、なるほど分りにくいなと思っていて。その理由を考えていたら、これは要するに、異なる要素がいっぱい入っちゃっているんですね。

それはたぶんアップサイクルを意識して、何とかしようとしたから分からなくなっているんだと思います。これは、フードドライブと言ったときに、要するに家庭からのフードドライブと事業者も寄付してねというのがあるじゃないですか、こういうようにしても何にしても。とにかく食品ロスになりそうなものを寄付してくださいという話であると、家庭系も事業者もという話で、これはこれで分かるんですね。

その中に、再販売、加工等にと書いてあるから、ええっという。もらう側の話ですかという話になっちゃって、それで話が分からなくなっちゃっているんですね。後ろの事業者がどちらを意味しているんだろう、それとも両方だろうか。それで、読んでもどちらだと明確には分からないので、それで、もやもやしているんだと思うんですね。

だから、事業者にももっと寄付してねと言うんだったら、加工とか未利用のところを消してしまうと、そこは誤解はなくなるんですね。

一方で、マッチングアプリとかで、余っているものをどこかに有効に活用するところを効率的に持っていこうという話があるじゃないですか。これは、寄付してくださいじゃなくて、どちらかというと、加工じゃないけど再販売、加工に近い話ですよね。これを二つ分けて書かないと分からないと思いますね。

○事務局（竹内総括主査） はい、おっしゃるとおりです。

○石川委員 違う話だから。どちらも進めたいんでしょう。

○事務局（竹内総括主査）　そうですね。どちらに進めたいです。寄付という形で無償で出ていく部分と、もう1回流通に乗せようという話と両方混在しているので、たぶん無理やり詰め込んだところが出てしまったのかなと思っております。

○石川委員　だから、出してくださいとお願いする出す側の話と、それからそれを何とか集めて有効に活用しますというのは全然違う話なので、だから、そこが二つともだよということが分かるように構成する必要があるんじゃないですかね。だから、吉田さんがおっしゃったように、できれば短い文章の方がいいんだけど、短くというよりは二つに分けるといふことかなという気もしますけど。小見出しを付けて二つに分けるような感じじゃないですかね。

○事務局（荒木総括課長補佐）　ありがとうございます。

○花田部会長　ありがとうございます。本当にそうしたら分かりやすくなりますね。今お聞きしながらこれはどちらだろうと思ったことがあるんですが、例えば、そんなに一般的ではないかもしれませんが、サルベージ・パーティみたいな、無駄にしないで、これで何ができるかというのをみんなで持ち寄って面白がりながらやるようなこととか、そういうのが広まってもいいのかもしれないと思いましたし、それから売れ残りのパンだったと思うんですが、1カ所に集めて、夜遅く。そうすると、皆さん買って行って廃棄しなくて済むということで、食品ロスを減らすようないろんな取組があって、どこがやるかということもあると思うんですね、今のご指摘のように。だから、そこら辺が分かるように。

それで、やっぱり石川委員がおっしゃっていただいたように、分けた方がいいですね、文章は。それは本当にそうだなと思いました。はい、ありがとうございます。

他にこの資料1、資料2について、何かご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。私見落としていませんよね。

○事務局（竹内総括主査）　はい、特に挙がっておりません。

○花田部会長　はい、ありがとうございます。ということで、ちょっとそのあたりをもう1回表現を考えていただくということと、この三つの軸というか、施策の体系について整理し直すという。ここのところはよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。では、それで進めていただくということにしたいと思います。

【資料3 計画の構成案について】

○花田部会長　では、続きまして資料3、計画の構成案についてということで、事務局からご説明をお願いできますでしょうか。

○事務局（竹内総括主査）　はい、事務局の竹内です。では資料3から私が説明をさせていただきます。

資料3の、こちらの方の構成案について、赤字になっております変更箇所を中心にご説明いたします。

見出しの新旧対照表ベースというところでご説明をさせていただきます、左側が改正

案、右側が現在の現行計画というところになっております。

1、2は同じでして、第3章の方で食品ロスの現状と、もともとなっておりましたけれども、この部会でもいろいろ分析をしまして、課題と方向性を出しておりますので、この課題と方向性という項目を新設しまして、今の家庭系の現状とか、こういうもの、方向性というところを記載したいと考えております。

目標が、先ほど出したところで、5章以下というところで大きく提案をさせていただきたいのですが、まず基本的施策の推進に関しては、先ほどご説明しましたとおり、体系というところで体系化をしたというところで施策体系に関する項目を入れたというところと、その3本柱に基づいての施策、取組というものを入れている。先ほどの宿題をいただいた表現等々は変えてまいりますが、こういうことで体系に基づいた書きぶりに消費者の、事業者のということではなしに、こちらに施策を入れていきたいというところになっております。

そういう説明をしますと、具体的に事業者や消費者がどういう行動をするのかということころが多少分かりにくくなるころがありますので、もともとでは第6章に入っておりました各主体の役割という部分を第5章に、まず消費者や事業者がどういった行動をしていく役割があるのかということころを先に説明させていただくというふうに構成を変えるというところと、先ほどの施策体系の中でも家庭系だけの取組があったり、もともとがやはり消費者行動というものが大事だと大阪府では考えているというところなので、フードサプライチェーンの順番ですと事業者、消費者なのですが、やはり消費者の行動を変えることが一番大事ということなので、消費者、事業者の順番に書かせていただきたいと考えております。構成案については以上です。

《意見交換》

○花田部会長 はい、ありがとうございました。ただいま構成案についてのご説明がありました。ご説明の内容につきまして、ご意見ご質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

今までのご説明をまとめていただいたという感じでございますね。はい、どうもありがとうございました。

【資料4 計画アウトラインについて】

○花田部会長 では、次へまいりたいと思います。資料の4、計画アウトラインについてということでございます。事務局からまたご説明をお願いできますでしょうか。

○事務局（竹内総括主査） はい、引き続きご説明いたします。共有を、少々お待ちください。

はい、お待たせしました。資料4ですね。アウトラインというところで、概要を示したもののになるんですが、こちら赤字で追加しておりますが、吹き出しで注釈を付けている大きな変更点を中心にご説明いたします。

第1章に食品ロス削減に向けた基本的な方法というところで、こちらに先ほど説明しましたスローガンが出てまいります。「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」というスローガンと、その背景なり考え方がある章なんです、こちらの方に家庭系の食品ロス削減、もしくは消費者行動を変えていくというところで、まず大阪らしい言葉で始末の心という、うまく使っていくというところを示した始末の心と、削減行動の売りきり食べきり使いきり、先ほど出てきた中の、削減行動を使ってサブタイトルとしまして、「始末の心で捨てずに売りきり食べきり使いきり」というタイトルを入れたいというのが大きく1点でございます。

第2章は、いわゆる役所的な整理というところで、第3章に関しましても、これまでの部会の検討をお聞きしてきた文言を入れていくというところで割愛させていただきます。現状と課題につきましても同様でございます。目標も先ほどのお話というところで、先ほどちょっとお示ししましたように、具体的な量を加えていきますというところで、先ほどのアウトラインというか、構成の中で出てきました各主体の役割というところは、こっち側が初出しになりますが、ここで各消費者と事業者がどんなことをするのかということを書かせていただいているんですが、またこれもリード文の中で、まずどういったことをするのかということを書かせていただいております。

消費者と事業者の方から出ていますよというところで、赤字としてそれぞれの役割を果たしつつ、コミュニケーションが大事というところを書かせていただいて、そのやりとりが要るよねという中で、付け加えさせていただいているところで、黄色いところですね。

大阪府も、府は事業者や消費者など関係するそれぞれの立場が自分の役割を理解し、具体的な取組を進められるよう支援していくというところで、この各主体の役割というのが果たせるように、府は支援しますと。一種府の役割的なところを少し書かせていただいております。

まず、先ほどの話で、消費者が先というところで、消費者の役割というところで書かせていただいているんですが、この黄色の部分ですね。そして、消費者の役割の中でも、食材を余すことなく使いきり、無駄なく食べきる大阪の食文化の精神を受け継ぐというところで、ここで使いきりに関するワードを追加させて、今度の柱の関係もありまして、使いきりを加えさせていただいております。

先ほどの最後の話にも入ってくるんですが、事業者、消費者とも役割の上の方の最後のところに、こうした取組を行った上で、なお発生する食品ロスについては、食品寄付やリサイクル等により適切な有効活用、再生利用等に協力するということで、発生抑制を行った後で出てくるものを寄付であったり、先ほどちょっと整理が必要と言っていた再販の場合であったり、リサイクルといったところを消費者、事業者とも記載をしているというところでございます。

その後、消費者については役割というのが行動例という形で、こんなときにこういうことをしましょうという形で列記させていただいているんですが、こちらにも具体的な手法、てま

えどり、フードドライブ、ローリングストック法というところに具体的に行動例をできるだけ書くようにしております。このあたりのてまえどりやローリングストック法って何なのというところは、用語集を作成して一緒にお付けしようということを今は計画しているところです。

事業者の役割というところで、赤で追記させていただいているところでは、まずは食べきりやすい、使いやすいというような商品やサービスというものも工夫していただきたいというところを赤字で書かせていただいているのと、先ほど同様に発生抑制をしてもまだ出る食品ロスについては、加工食品、寄付、リサイクルと先ほどもいろいろ入っているところで有効活用、再生利用等を行っていただきたいというところを書かせていただいております。

事業者に関しては、業種別で役割を変えていくというスタイルになっておりまして、売りきりをこちらに追加させていただいていると。売りきりの推進ということで、いわゆる見切りものを売れるようにするとか、値引きをしますとか、そういうことをやっていただきたいということを入れさせていただいているというところです。

基本的施策の推進に関しては、先ほどお示しさせていただいた内容というところで、同じような表が入っているというところで、それぞれの施策に関しても、先ほどのものを文章に起こしていったところですので、連動して書き直すところが出てくるのかなと思っております。小見出しの話がございまして、最終的に推進体制というものを書いていて、この辺は変更がございません。

ということで、こちらの説明については以上でございます。計画アウトラインについては以上なんですけれども、資料5にあります計画本文の素案については、今日いただいたご意見を踏まえまして、次回第3回の部会で最終案として提出してご審議いただくというところに思っております。以上でございます。

《意見交換》

○花田部会長 はい、ありがとうございました。ただいま事務局から計画のアウトラインについてご説明がありました。この内容につきまして、ご意見ご質問をぜひ賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

私から1点よろしいですか。サブタイトルを、一番最初のところですね、それを付けたらいいとは思うんです。それで、こういうのは口調というか、調子がいいということが、ずっと入っていくために大切なことかなというふうに思っていて、日本語って5、7、5みたいなのが調子いいですよ、耳にいいと。それで、「始末の心で」これが8ですけど、一応7なんですね。「捨てずに」というのが4なんですよ。だから、たしかに全部足したら12なんだけれど、ちょっと調子としては、「始末の心で、テテテテ」と、何か5文字入って、「始末の心でテテテテ、売りきり食べきり使いきり」、と言うとうまく収まる。

それで、今5文字というのをご説明を聞きながらどうしたらいいかなと思って、妙案は出

ないんですが、例えばですが、「始末の心で取り組もう、売りきり食べきり使いきり」とか、そういうふうに、ちょっと口調がいいようにした方が入ってくると思うんです。

このあたり、委員の皆さまからこんなのはどうですかという。始末の心はすごくいいと思うので、それは残したらいいと思うんですが、その後、捨てずにというこの4のところを5にした方が入りやすいと思うんですが、いかがですかね。

これがちょっと引っ掛かったところでございます。すみません。委員の皆さまのご意見をお伺いしたいなと思って。凡庸だとは思いますが、今思い付いたから。始末の心で取り組もうじゃあ凡庸だと思うんですが、調子としては、たぶん5文字にした方が調子がいいかなと思うんですね。ちょっとこのあたり、考えていただけたらと思います。

せっかくサブタイトルを付けるんだったら、ちょっと引っ掛かるのが良い。どう言ったらいいかな、「始末の心」が引っ掛かりだと思うんですよ、大阪らしい。だから、あとは口調の話だけなので、少し考えていただけたら私は思いましたということでございます。

他に委員の皆さまいかがでしょう。はい、石川委員、お願いします。

○石川委員 全体としては、異議はありません。いいかなと思います。私も言葉の問題なんですが、第5章各主体の役割のところ、黄色くマークしてあるところで、府は事業者や消費者など関係するそれぞれの立場が自分の役割を理解し、具体的な取組を進められるよう支援していくということで、読めば意味はよく分かるし、あれなんだけど、ちょっと引っ掛かりがあって、その原因を考えていたら、二つあって、一つは「それぞれの立場が」というのが、立場が行動するのかという、何か変な気がしてきて。「それぞれの主体が」ですよ。

○事務局（竹内総括主査） そうですね。

○石川委員 「自分の立場が」というのが、ちょっと分かりにくいという。それが1点。

それから、もう1点はニュアンスとして最初に引っ掛かったのは、何だかこれは上から目線の文章だなと思ったんですよ。それはなぜかという、と、「理解し」というところで引っ掛かるんですよ。何となく、皆さんがそう捉えるわけではないんでしょうけれども、分かっていないから、問題が起こっているんだから、まず府が正しいことを教えてやるよという感じにも受けるんですよ。

それで、その役割というのも全然分かってないでしょうというふうなニュアンス。やるべきことは当然あって、決まっていて、それは大阪府は分かっているけれども、やるべき人は分かっているんだと。だから、理解させてやるというような感じの受け取りもできるんですよ。

だから、役割と言うんだったら、2点一つあって、やるべきこと、役割がそれぞれあって、やるべきことはもう決まっているんだと。それが皆さんが周知されていないというか、合意していないんだか何だかで、だからうまくいっていないんだという感じを受けるんですよ。これが対策だと言われると。

そうすると、そのこと自体に異議がある人もいないかもしれないというのと、それから大阪

府だけが正解を知っているって、それは本当かよという話と、えらく上から目線だなという感じと、そういうのが一緒くたに来るんですよね。それがたぶん、私が最初にちょっと感じた違和感の原因かなと思います。

だから、連携して何かをやりたいという話と、食品ロスを削減する方策は、どうやってやっていくかレベルになったら、これからもっともっとイノベーティブなことを期待している分野じゃないですか。だから、これさえやればいいのに、誰もやらないから困ってんだという話とは、ちょっと違うんですよね。

だから、それからいくと、上の方の文章にも一番上の第5章の最初のパラグラフにも関係するんですが、感じとしては、やるべきことがあるのにそれを教えてやるという感じではなくて、消費者も事業者も食品ロスを削減するべきだと、そういう問題があると。それで、問題を共有していますかというのもあって、それを減らしていきましょうという思いを共有しましょうよというのが2段階目にあって、いろんな工夫もやっているし、そういうものが、いいアイデアがあったら大阪府も応援したいと思っていますというような感じじゃないかと思うんですよね。

そうすると、そっちの発展的な何かのようなニュアンスに聞こえるように、表現だけの話ですけどね。具体的にやることは同じだと思うんですが、そういうふうにはできないかなと思って、さっきからちょっと考えていたんですけど。

○花田部会長 そうですね。今おっしゃっていただいたように、まず課題があるということを押さえて、それをそれぞれの立場から考えてほしいというような形に持っていったらどうなのかなと思うんです。そして、それを大阪府も応援、おっしゃっていただいたら応援しますよという。

だから、例えば、関係するそれぞれの立場、立場からだと思いますが、せめて。立場が自分の役割、これはちょっとおかしい、確かに。「自分の役割を理解し」、なんですけど、例えば、それぞれの立場から何ができるか考え、みたいなことじゃないですか。

その、理解できてるかじゃなくて、こういう問題があるから、それぞれ工夫してくださいねということですよ。それを大阪府は支援しますというふうにしたら、いかがでしょうね、石川先生。

○石川委員 たぶんおっしゃるとおりで、食品ロスは消費者の立場からいくと、あんまり大したことじゃないと思って食べ残しているんだと思うんですよね。食べ残すのは、それはおなかいっぱいなんだから、もう注文しちゃうたしょうがないと私は思いますけど、注文する前にそれを考えてほしいんだけど、それが意識に上らないということ自体が根本の原因のような気はするんですよね。

そうすると、残ったものを何とか持って帰れるようにするとかそういうのは、なんか事後的な話だし、一番大事なものは消費者がもったいないの始末の心をもっと常に意識するようにすることのような気はするんですよね。

○花田部会長 だから、この問題を常に意識して、何ができるか考えていくということですよ。

よね。

○石川委員 そうだと思いますよ。だから、自然にそれができるように事業者の方も何か考えていただくといいんじゃないのかなと思うんですよね。

○花田部会長 あとは、そういえばと思うんですが、消費者はこれをする、事業者はこれをするというような表現にどうしてもなるんだけど、それは仕方ないんですが、例えば事業者がやっていることを消費者が、それこそ理解してというか、分かって、市場の中でそれを優先的に認めていく。そういうお店とか、そういう製品を、そういう事業者を消費者が消費者の立場で、消費行動で応援していく。市場ってそういうもんじゃないですか。消費者と事業者が行動で示す。だから、それが必要だということがあってもいいのかなと思いました。

事業者としてこれをやる、消費者としてこれをやるというだけじゃなくて、消費者の行動を促すようなことを事業者はやるし、その事業者のやっていることを消費者が理解して反応するということが大切なんですよということが分かるようなことがあってもいいのかなと思いました。どこかにあるのかもしれませんが。すみません、私が読みきれていないのかもしれないけど。

それで、今石川先生がおっしゃったように、意識するとだいぶ違うのはすごくあって、だから意識していただくためのきっかけが、この計画の一つの役割かなというふうにも思うので、そういう意味では表現はすごく大切なと今お聞きしながら思っていました。なので、少しそこを考えて、最後の修正をしていただけるといいかなと思います。

特に、今ご指摘いただいた第5章のところ、確かにって気が付かなかったけど、何となく読んじったんですが、大切ですよね。各主体の役割って。だから、そういう、お互いということもちょっとこの中に、もし入ったら入れていただくと。グリーン購入なんて、まさにそうだと思うんですが、そういう力を消費者が持っているということを消費者に分かっていただくといいのかなと思ったりしました。

はい、ありがとうございます。他にご意見はいかがでしょうか。はい、吉田委員お願いします。

○吉田委員 ありがとうございます。先ほどのご意見を受けて言うと、消費者の役割のところに具体的な買い物の際とか、食品保存の際みたいなのを挙げてくださっているのですが、そこに何らか、上のリード文のところにはちゃんと事業者の取組を支援するというのがあるので、それに関連するような何か一つここに、(5)なのか分からないんですが、入れていただけると良いのかなというのは、ちょっと話を聞いていて思いましたというところでございます。

あと、すみません、今回の黄色の部分、ご説明になかったところなんですけど、第5章の一番上の各主体の役割のところ、3行目の消費者の理解を深めることが必要であるという文章があるかなと思うんですが、これはもしかしたら必要というよりは、肝要であるとか必須であるとか重要であるとか、もうワンランク上のというか、もう少し強い言い方でも、もし

かしたらいいのかなという感じがちょっといたしましたというところで。すみません、2点です。

○花田部会長 ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

○事務局（竹内総括主査） まず1点目の各行動の際に、リード文にあるようなサービスをできるだけ選択してくださいと。ごもっともです。書きぶりとしては、いろんな中に入っているというところはあるんですが、そこら辺をちょっと。そういうお買い物であったり、外食するときであったりというときに、そういうものを使っていくと、もう一つ手前取りのように踏み込んだ行動というのをお示しできると、より具体的かなと思いますので、入れていくようにいたします。

重要、肝要のところは、実はもともとはずごく、都合みたいな感じですが、重要やったんですが、その次に重要が来るので、言葉を変えようということにしているんですが、そのあたりは日本語のお話ですので。

○吉田委員 それについては分かります。

○事務局（竹内総括主査） そこももう少しクラスアップするように考えてまいります。

○吉田委員 はい。本当は消費者の皆さんが理解してくださらないと、事業者側だけがやっても伝わらなかったり、結び付かないと思いますし、今消費者の家庭のロスが足踏みしているというところも踏まえると、もう少し強いというか、もうちょっと踏み込んだ言い方でも私は違和感はないかなと思った次第です。すみません、よろしくお願いします。言葉がかぶるのでというのは、すごく私も仕事のときとかにもよくやっている失敗ごとなので、すごく分かります。ありがとうございます。

○花田部会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

いろいろと大切なご指摘をいただきました。表現は、やっぱりすごく大切だなと今ご意見をお伺いしながら改めて思いました。少し全般にわたることですが、この機会にもう1回事務局の方で見直していただいて、この機会ですから読む事業者の方、消費者の方にさらに踏み込んだ行動変容をしていただけるようにお願いしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか、事務局。

○事務局（荒木総括課長補佐） 承知しました。ありがとうございます。

○花田部会長 はい、ありがとうございます。

資料の5は本文ということなので、また少し手直しをしていただいて次に出していただけるということですので、最後に全体を通じて何かご質問ご意見があったらと思いますが、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

はい、どうもありがとうございました。本当に皆さま、お忙しいところを。いろんなご意見をいただきました。いろんな角度からのご意見をいただいて、本当に充実したと思います。また、それを前向きに捉えて、受け止めてくださっている事務局の皆さまにも感謝申し上げます。どうも本当にありがとうございました。

では、事務局に進行をお返ししてもよろしいですか。

○事務局(荒木総括課長補佐) はい。花田部会長、進行をありがとうございました。また、各委員の皆さま方におかれましては、貴重なご意見をありがとうございました。本日いただきましたご意見につきましては、とりまとめを事務局で行いまして、次回第3回の部会にてお示しをさせていただきたく存じます。次回の第3回部会につきましては、本年の12月上旬ごろ開催予定としておりますので、後日事務局より日程の調整をさせていただければと思います。また、委員の皆さま方におかれましては、先ほど冒頭でも申し上げましたが、次回の素案の修正案に向けまして、個別にご意見等をちょうだいしたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第2回大阪府食品ロス削減推進計画部会を閉会いたします。本日は、どうもありがとうございました。

(終了)